

2021年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	経済学入門 (Introduction to Economics)		
ナンバリングコード	E10103	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 基礎レベル 専門基礎
単位数	2	配当学年 / 開講期	1年 / 後期
必修・選択区分	必修: 経営経済学部 コース選択必修: 情報メディア学科 情報コミュコース  ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E014951	クラス名	森田クラス
担当教員名	森田 和子		
履修上の注意、履修条件	はじめて経済学を学ぶ学生が対象です。特別な予備知識は必要としません。出席を重視します。毎回出席をとります。		
教科書	教科書は使用しません。毎回、講義ノートのプリントを配布します。		
参考文献及び指定図書	「キーワード経済学入門」 河村・高屋・阿部共著 (嵯峨野書院)		
関連科目	なし		

○基本情報	
授業の目的	経済学入門はこれから専門科目を学んでいく上で基礎となる科目です。経済活動は複雑な現代社会を構成している基礎であり、経済を理解することは社会を理解することにつながります。この授業では経済学を初めて学ぶ学生を対象に、経済学を学ぶことで得られる抽象的な思考力、分析力を身につけることを目的とします。むずかしそうにみえる経済学ですが、実際は日々の生活ともむすびついており、経済学的なもの見方、考え方ができることがこれから社会のさまざまな問題を理解することにつながります。
授業の概要	経済活動とはそもそも何か、そして経済活動を研究する経済学がいつごろどのような人たちにより形成されたのかから講義をはじめ、その後経済学で重要な概念となっている市場、価格、需要と供給について15回の授業で学んでいきます。経済学の基本用語が理解できるとともに、需要曲線・供給曲線による分析と市場と政府の関係、家計の消費行動の分析、マクロの経済活動、そして不況と失業問題の解決がおもな内容です。
授業の運営方法	(1) 授業の形式 「講義形式」 (2) 複数担当の場合の方式 「該当しない」 (3) アクティブ・ラーニング 「該当なし」
地域志向科目	該当しない
実務経験のある教員による授業科目	該当しない

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	身近な経済現象に興味をもち、需要・供給の側面から考えることができる。	10点	10点	
【知識・理解】	経済学がとりあつかう基本的な内容を理解できる。上位学年で学ぶ経済学専門科目の基礎を習得する。	20点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】	用語の説明や分析を文章および図により書くことができる。			20点
【思考・判断・創造】	経済学の考え方を理解し、現代の経済問題を経済学的な思考で理解できる。	20点	10点	

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
経済学の基礎を理解し、経済用語を用いて答案にまとめることができたか。 S評価: 講義の内容全体をよく理解し、なぜなのかを考えながら試験の各設問についてすじみちだった解答を文章で説明することができる。A評価: 講義内容のほぼ全体を理解し、試験の各設問についてすじみちだった解答を文章で説明することができる。B評価: 講義内容を理解したうえで、試験の設問の大半に文章で説明を書くことができる。C評価: 講義内容について理解できたところにはらつきはあっても試験の設問に文章で解答を書くことができる。レポート提出後の講評は、提出締め切り後の講義のなかで行う。期末試験の講評については、後期授業アンケートへの回答で説明する。

○その他

## 2021年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画	科目名 担当教員	経済学入門 (Introduction to Economics) 森田 和子	授業コード	E014951
<b>学修内容</b>				
<b>1.</b>				
第1回 経済活動と経済学 経済活動とは何か、そして人類の歴史の中で経済活動はどのように発展したのか。次に経済活動を研究対象とする経済学はいつごろ始まったのかを近代市民社会の成立、産業革命、資本主義経済の成立とあわせて考察する。				
予習	経済学入門のシラバスを読んでおく。力のある人は経済学の本を手に取り、目次やはじめに読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>2.</b>				
第2回 経済学の世界のなりたち 経済学の研究の歴史を理解するうえで重要な、3大経済学者とよばれるアダム・スミス、マルクス、ケインズの3人を取り上げる。彼らの生きた時代と何が問題で何を考えたのかを理解する。				
予習	アダム・スミス、マルクス、ケインズがどのような人なのかを調べてみる。経済用語事典の第3章も参照する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>3.</b>				
第3回 経済学の世界へ これから授業でつかう経済学の基本用語をおぼえる。財・サービス、市場、価格、経済活動の主体である企業と家計を取り上げる。市場で行われる財・サービスと貨幣の交換による市場を通じた経済循環のしくみを理解する。				
予習	経済学用語事典の第1章を読み、市場を通じた経済活動と基本用語に目を通しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>4.</b>				
第4回 経済学の世界へ(つづき) 前回取り上げた財について、どのような種類があるのか学ぶ。経済財と自由財、そして経済財は中間財と最終財、耐久消費財と非耐久消費財などに分類できる。次に自由主義経済体制のもとでは市場の競争が経済を成長させるために非常に大切であることを学ぶ。				
予習	経済学用語事典の第1章を読み、財の種類と競争について目を通しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>5.</b>				
第5回 需要曲線と供給曲線 第5回はおもに需要曲線について説明する。需要表をもとに、価格と数量をはかる座標軸上に需要曲線がいかにあらわせるかを説明する。また、供給表をもとに供給曲線の導出をみていく。そして、需要と供給の均衡点から均衡価格と均衡数量をもとめる。市場の価格が均衡価格より高いまたは低いとき、どのような調整が行われるかを考える。				
予習	需要と供給が何を意味するかを前回までの講義ノートをもとにしっかり確認しておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、需要曲線と供給曲線を自分でも書けるか実際に書いてみて確認する。			約2時間
<b>6.</b>				
第6回 需要曲線・供給曲線のシフトとその原因 前回の復習をした後、同じ価格でも需要または供給したいと思う量が増える現象に注目する。このとき、図による説明では需要曲線または供給曲線の位置が移動(シフト)することを実際に図を書いて説明する。次に需要曲線、供給曲線のシフトはどのようなときにおきるのか、その原因をみていく。				
予習	前回の講義ノートを参照し、需要曲線と供給曲線の描き方をもう一度確認する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、需要曲線・供給曲線がシフトする原因を確認する。			約2時間
<b>7.</b>				
第7回 需要と供給 応用(1) 右下がりの需要曲線、右上がりの供給曲線とはちがった、特殊なケースの供給曲線をみていく。今回は垂直な供給曲線がえがける場合があり、そのとき需要が増加したら価格はどのように変化するかをみる。また、豊作貧乏のケースを取り上げ、豊作になると農家は必ずしも豊かになれないという矛盾がなぜおきるのかを考え、ここから現実の経済がもつむずかしさを理解する。				
予習	需要と供給の概念をもう一度確認する。一般的な需要曲線・供給曲線の形状を理解する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、いかなる時に垂直な供給曲線となるかを確認する。授業で取り上げた以外の事例も考え			約2時間
<b>8.</b>				
第8回 需要と供給 応用(2) 弾力的な需要曲線と非弾力的な需要曲線について学ぶ。ぜいたく品と生活必需品の需要のしかたのちがいを価格との関係でとらえることで、弾力性の概念を学ぶ。次に、垂直な需要曲線と、水平な供給曲線がえがける例をみていく。				
予習	価格と需要したいと思う量との関係を確認しておく。価格の変化に対して、需要量が変化する割合に注目する。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、弾力性の概念について確認する。授業で取り上げた以外の事例も考えてみる。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	経済学入門 (Introduction to Economics) 森田 和子	授業コード	E014951
<b>学修内容</b>				
<b>9.</b>				
第9回 さまざまな需要と供給の事例 授業の前半は、日本の地価、後方に屈曲する労働供給曲線を取り上げ、需要と供給を現実の経済現象に応用する。後半は水とダイヤモンドの例から限界効用の概念を説明する。経済学における価値論の変遷を説明してまとめとする。 第9回の講義終了後、レポート課題提示「関心のある身近な財・サービスの需要と供給と今後の見通しについて」(自主学习5h)				
予習	前回の講義ノートを見直ししておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直した後、レポートを書く準備をする。			約2時間
<b>10.</b>				
第10回 家計の消費行動(1) 予算線 家計はどのようにして消費の決定を行うのかの分析。今回は予算線の導出により、家計にはつかえる予算に制約があり、与えられた条件のもとで最大の満足を得ることを目標に消費決定をすることを説明をする。また、予算が増えた場合、減った場合および財の価格が変化したときに予算線の形がどのように変化するかを実際に書いてみて説明する。				
予習	経済学の教科書から「家計の消費行動」の章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、予算線についてわかったことを整理・確認する。自分で予算線を書いてみることも勉強に			約2時間
<b>11.</b>				
第11回 家計の消費行動(2) 無差別曲線 家計の消費行動を分析するために予算線とともに必要なものが無差別曲線である。無差別曲線とは何か、どのように座標軸上にえがけるのか、そして無差別曲線の3つの特徴を説明する。最後に予算線と無差別曲線の接点が家計の消費均衡点となることを説明する。				
予習	教科書の「家計の消費行動」の章を参照し、予算線について確認する。力があれば無差別曲線の箇所も読ん			約2時間
復習	講義ノートを見直し、経済学では家計の消費行動をいかに説明するのかを予算線と無差別曲線の2つで説明			約2時間
<b>12.</b>				
第12回 市場のしくみと政府の役割 市場のしくみ(市場メカニズム)による資源配分、所得分配は経済活動の中心ではありますが、解決できない問題(市場の失敗)も存在することを説明する。市場の活動を補うために、政府はどのような役割をはたすべきなのかを取り上げる。				
予習	経済学の教科書から市場メカニズムの外からはたらきかける政府の役割について書かれた章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、市場の失敗と政府の役割について内容を整理する。			約2時間
<b>13.</b>				
第13回 マクロ経済学(1) 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の2つの領域がある。第13回からはマクロ経済学を勉強する。はじめにミクロとマクロの視点のちがいを説明し、次にマクロ経済学で重要な国内総生産(GDP)などの指標を取り上げる。授業の後半は、現実の経済の動きをとらえるこれまでの研究として景気循環(好況と不況が周期的に観察されること)論があり、世界大恐慌(1929年)の発生とその後の不況・失業問題解決のためにケインズの新しい経済理論が登場したことを説明する。				
予習	経済学の教科書から、マクロ経済学についての最初の章を読んでみる。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>14.</b>				
第14回 マクロ経済学(2) マクロでみた所得・消費・貯蓄・投資について勉強する。ここでの勉強は、次回で学ぶケインズ型消費関数を理解するための基礎となる。後半は、デフレスパイラル(不況の悪循環)がなぜ起こり、そこから抜け出すためにはどうすればよいのかをケインズの見方によって勉強する。 第14回講義終了までが、第9回で課されたレポートの提出締切日です。				
予習	マクロでみた所得・消費・貯蓄・投資の関係について教科書の関連ページを読み、考えておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、キーワードとして出てきたことばを自分でも調べて補足説明を書きとめておく。			約2時間
<b>15.</b>				
第15回 マクロ経済学(3) マクロ経済学第3回は、ケインズ型消費関数の説明と、45度線図による均衡国民所得の決定理論の説明です。総需要と総供給の均衡が必ずしも完全雇用を実現する均衡とはなっていないことに気付き、失業をなくすためには政府による有効需要の創出(ケインズの考え方)が必要であることを述べて、まとめとします。				
予習	教科書の関連箇所を目を通し、わからないことばをチェックしておく。			約2時間
復習	講義ノートを見直し、45度線図をつかった完全雇用を達成する均衡点実現までの方法を確認する。			約2時間
<b>16. 期末試験</b>				
試験は第1回から第15回までの全範囲について持ち込みなしで行います。基礎事項に関する小問題と論述問題が出題されますので、授業の講義ノートを復習し、経済学の基本用語の確認とそれをつかった筋道の通る文章を書けるようにしておいてください。				
予習	第1回から第15回までの講義ノートの見直し。わからない箇所は自分で調べておく。(5h)			
復習	試験でわからなかった問題を調べてみる。インターネットによる授業アンケートに回答をお願いします。(1h)			